

平成 22 年 5 月 27 日
(社)日本物流団体連合会

第 11 回物流環境大賞 受賞者決定

大賞は、佐川急便株式会社

「物流パフォーマンス(CO₂)の 見える化に向けた情報提供」に決定

当連合会は、平成 22 年 5 月 24 日、物流環境大賞選考委員会(委員長:宮原耕治(社)日本物流団体連合会会長)を開催し、第 11 回「物流環境大賞」の受賞者を別紙の通り、決定致しました。

物流部門においても、環境に対する取り組みは年々広がりを見せ、各企業・団体の意識も高まっており、今回も多数の応募が届き、決定に至るまで大変時間を要しました。

今回については、物流環境大賞 1 件をはじめ、合計 9 件について表彰することと致しました。

なお、表彰式は平成 22 年 6 月 30 日(水)、霞山会館にて開催される第 19 回通常総会の席上において行われます。

【添付資料】

- 別紙 1 : 第 11 回表彰受賞者の概要
- 別紙 2 : 物流環境大賞について
- 別紙 3 : 第 11 回物流環境大賞選考委員会委員名簿

担当 : (社)日本物流団体連合会
事務局 藤 嶋 (フジシマ)
TEL : 03 - 3593 - 0139

第 11 回表彰受賞者の概要

1. 物流環境大賞 (1 件)

被表彰者：佐川急便株式会社

功績事項：物流パフォーマンス（CO₂）の見える化に向けた情報提供

不特定多数のお客様の荷物を同時に輸送する宅配便輸送であるため、メーカー物流でよく見られる貸切輸送とは異なるため、CO₂排出量の数値を算出するのは難しい。しかし、従来から保有する追跡システム・路線管理システム等からお客様ごとの対象データを集計することで、実態に近い情報提供が可能。お客様へ提供する情報は、請求伝票の明細と同じ単位で提供しており、お客様側では請求書とのつき合わせが簡単であることから、非常に喜ばれている。

2. 物流環境保全活動賞 (1 件)

被表彰者：有限会社上十青果 / 八戸通運株式会社

日本貨物鉄道株式会社 / 東急車輛製造株式会社

日本石油輸送株式会社【共同申請】

功績事項：十和田産生鮮野菜の輸送を冷凍トラック輸送から冷凍・高性能断熱冷蔵コンテナを使用した鉄道輸送へのモーダルシフト

エンジンを積載した冷凍コンテナと同等の輸送品質を確保できる高性能断熱冷蔵コンテナ「スーパーUR」を東急車輛製造と日本石油輸送で共同開発し、平成 21 年度から実用化。東北地区から九州地区までの約 1,600km をトラック輸送だった生鮮野菜を八戸通運・JR 貨物・日本石油輸送は、上十青果へモーダルシフトの提案。実施後は、CO₂排出量を大きく削減。

3. 物流環境啓蒙賞 (1 件)

被表彰者：社団法人東京都トラック協会

功績事項：グリーン・エコプロジェクト推進活動事業

継続的なエコドライブ活動を行うため、参加会員事業者の車両ごとの車検証データをもとに、ドライバーが月次走行管理表を記入し、そのデータをもとにデータベース化。CO₂排出量などの基礎となる燃費データを構築し、毎月の各種データに基づく解析結果を参加会員事業者へ提供。また、レベルにあわせたセミナーを開催し、一人ひとりの意見が聞ける少人数制での経営者・管理者教育を行い、従業員・ドライバー教育にも役立つ環境づくりを支援している。

4. 物流環境負荷軽減技術開発賞 (1 件)

被表彰者：株式会社豊田自動織機

功績事項：ハイブリッドフォークリフト「ジェネオ ハイブリッド」の開発

国内フォークリフト市場における電動式フォークリフトの比率は過半数を占める一方、積載荷重3トンを超える電動式フォークリフトの比率は数%。燃料消費量の低減・CO₂排出量の低減の両面から、環境性能向上に対する市場ニーズは高いという市場動向を踏まえ、環境性能・実用性を高い次元で両立するフォークリフトの開発を行い、世界トップクラスの燃費性能を実現。従来車に対し、燃料消費量を50%、CO₂排出量も50%低減することができた。

5. 物流環境特別賞 (5 件)

被表彰者：日信工業株式会社

功績事項：箆笥梱包輸送方式による業務改善と環境対応

物流業界の共通課題、非効率な空気輸送、低効率な積み替え乗せ替え、フォークリフトによる排気ガス汚染、多種多様な専用梱包材、大量の廃棄物が出る実態。これらが全二酸化炭素排出量の20%を占める大きな原因と考え、改革に取り組む。日本古来の伝統家具である箆笥を応用し、台車、パレット、容器、仕切り、パット及び梱包材、梱包副資材を統合共用化し、台車サイズにコンパクト化し、更に輸送コンテナ化し、これに製品を収納して運ぶ方式を開発・実用化した。

被表彰者：三井倉庫株式会社

功績事項：大阪茨木レコードセンター建設における、免震構造・省エネ設備採用によるCO₂排出削減の取り組みと積極的な緑化計画による地域への貢献 ほか

省エネ対策で、電気ヒートポンプマルチパッケージ個別空調機器、人感センサー等の採用で、消費電力の大幅な削減。耐久性は、抗頭免震構造を採用。外壁型枠の転用、鉄筋先組工法の採用により、工期短縮・型枠材料・仮設資材削減を目指した。ヒートアイランド対策として、既存緑地の保存を図り、敷地の約13%を緑化する計画とした。4か所に保管中の貨物(書類)を2か所に集約、集配送回数を減らし、施設内で廃棄書類溶解処理を行い、廃棄業者への運送回数を減少。

被表彰者：プロロジス / 株式会社フジタ

株式会社NTTファシリティーズ【共同申請】

功績事項：太陽光発電の導入などの取り組みにより環境負荷を低減した大型物流施設「プロロジスパーク座間」の開発

「フロッシパーク座間」開発に当たり、環境への配慮がこれまで以上に要求される社会情勢とともに、周辺に住居が多い立地を考慮し、地球・地域環境レベルで重点的に取り組み、建物設計施工担当の(株)フジタ、太陽光発電システム設計施工の(株)NTTファシリティーズと協力し、環境負荷の少ない施設づくり、周辺環境や利用者にやさしい施設づくりに配慮した施設を開発。CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)Sランク認証取得。

被表彰者：日本通運株式会社 / 川上産業株式会社
株式会社岩井化成 【共同申請】

功績事項：気泡緩衝材「プチプチ」の循環リサイクルの輪

国内引越では反復資材の再利用を推進してきたが、海外引越では長い時間と距離に耐えうる梱包が必要。片道輸送で梱包資材の再利用は困難だった。そこで、3社共同で、食器などの梱包に利用し、開梱後はごみとして処理していた「プチプチ」を再生し、再度引っ越し作業で使用するを目的に取り組みを開始。ごみ(廃棄物)が資材(価値あるもの)に再生。従来品より、コシがあり、丈夫なものに再生化できた。コスト、CO₂排出量の削減に大きく貢献。

被表彰者：下関商工会議所 / 下関市 【共同申請】

功績事項：鉄道貨物輸送の促進に関する社会実験(インセンティブ補助事業)

温室効果ガス排出量増加による、地球温暖化が問題となっており、モーダルシフトへの対応が求められている。環境にやさしい輸送手段である鉄道輸送の利用促進を目的とし、下関市・主要顧客・船会社・利用運送事業者などと共同で「下関貨物駅使用促進協議会」を設置した。協議会での検討結果をもとに、平成21年度、市で鉄道利用促進に関する社会実験として、利用者に対するインセンティブ補助事業を実施し、モーダルシフトに大きな成果を与えた。

物流環境大賞について

物流環境大賞は、社団法人日本物流団体連合会が平成12年度より制定致したものであります。

その趣旨は、近年、物流分野においても環境問題への対応が益々重要となっている現状に鑑みまして、物流部門において環境保全活動や環境啓蒙活動等の面で優れた功績を残された団体、企業又は個人を表彰する制度を設け、もって環境施策の一層の推進を図ることと致したいというものであります。

毎年、物流環境大賞選考委員会（委員長 宮原耕治（社）日本物流団体連合会会長）で、被表彰者を選考の上、通常総会において表彰することと致しております。

第 11 回物流環境大賞選考委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

(選考委員会)

委員長	宮原 耕治	(社)日本物流団体連合会会長
副委員長	野尻 俊明	流通経済大学法学部教授
委員	田中 照久	国土交通省政策統括官付参事官(物流政策)
	与田 俊和	交通エコロジー・モビリティ財団理事長
	谷利 亨	(財)運輸低公害車普及機構調査役
	西村 國紀	(株)カーゴ・ジャパン社長
	田村 修二	(社)日本物流団体連合会 物流環境対策委員会委員長
	渡邊 健二	(社)日本物流団体連合会 人材育成・広報委員会委員長
	平山 芳昭	(社)日本物流団体連合会理事長

(予備選考委員会)

委員長	野尻 俊明	流通経済大学法学部教授
委員	谷利 亨	(財)運輸低公害車普及機構調査役
	西村 國紀	(株)カーゴ・ジャパン社長
	平山 芳昭	(社)日本物流団体連合会理事長